

2025年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 今回通期の営業利益予想を従来の370億円から300億円に下方修正したが、引き下げた背景は何か？また、今後の見通しはどうか？
- A: 欧州経済が想定以上に減速し、欧州の建築用ガラス事業で大きく影響を受けました。今後もしばらく経済減速に起因した販売価格および販売数量低下の影響は継続すると見ており、下方修正をしました。自動車用ガラス事業については、補修用は好調を予想している一方で、新車用は引き続き注視が必要な状況です。
- Q: 通期営業利益予想を370億円から300億円に引き下げているが、何が原因で引き下げているか差異分析の形で説明して欲しい。
- A: ほとんどが欧州の建築用ガラス事業が原因で引き下げています。販売数量と販売価格の低下によるものが大きく、人件費等その他コストの増加の影響も一部あります。
- Q: 上期の営業利益予想120億円に対して第1四半期の実績は48億円であり、差し引きすると第2四半期は72億円と第1四半期比で増益の予想となる。営業利益の改善を予想している背景は？
- A: 欧州の建築用ガラス事業や自動車用ガラス事業の新車向けは厳しい事業環境が続くと見えますが、一方堅調に推移する事業や地域もあります。例えば太陽電池パネル用ガラス事業や自動車用ガラス事業の補修用は引き続き好調が続き、高機能ガラス事業も回復傾向にあります。また、第1四半期は北米の自動車用ガラス事業で工場の生産効率が一時的に低下しましたが改善傾向にあり、ドイツのフロート窯停止による資産稼働率の改善によるコスト削減と需給環境改善による販売価格上昇も見込まれます。
- Q: 足元では米国の経済減速に対する懸念が出てきている。今回の業績予想の修正では、その影響は織り込んでいるか？
- A: 米国の経済状況は注視が必要と認識しており、引き続き金利や経済指標、次期大統領選挙の結果に伴う政策動向をフォローしていきます。太陽電池パネル用ガラス事業は、引き続き堅調に推移する見込みです。一般用建築用ガラス事業や自動車用ガラス事業は、現状大きな落ち込みは想定していません。
- Q: 自動車用ガラス事業は、前年同期比で営業利益率が3.2%から2.2%へ低下している。第2四半期以降、収益性の改善は見込めるか？
- A: 欧州新車用の事業環境は引き続き楽観はできませんが、全般的に好調である補修用や、日本、南米等で利益を伸ばすことにより営業利益率の改善を目指します。
- Q: 高機能ガラス事業は前年同期比で増収だが、減益である。営業利益率低下の要因は何か？今後のコスト対策について教えてほしい。
- A: 売上高は為替の影響もあり増加しましたが、営業利益は人件費等その他コスト増加の影響を受け減少しました。今後については、市場に回復の兆しがあることを踏まえ、価格改善を進めコスト増加の影響を軽減し、営業利益率の改善に努めます。